山形県教育委員会・県P連・高P連・合同教育懇談会(令和4年11月4日)ホテルキャスル

テーマ

『コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動とPTA』

社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校教育を学校内に閉じずに、地域の教育資源を学校教育に生かしながら、地域と学校が一体となってよりよい社会を創っていくことが求められている。県では、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な実施を推進している。

〈話題提供〉教育庁生涯教育·学習振興課 課長補佐 矢作 誠 氏

地方では近年、少子高齢化、生産年齢人口の減少によって過疎化が進み、学校ではいじめ、不登校、学力低下などの問題が長期化深刻化しつつある。地域と学校のそれぞれが単独で対応していくことは、困難になっている。そのために、学校、家庭、地域が一体となって「地域とともにある学校づくり」に取り組むことが必要になってきており、実現のために有効な仕組み、考え方が※コミュニティ・スクールである。(※コミュニティ・スクールとは、学校と地域が対等の立場で学校運営について話し合う学校運営協議会を置く学校のことである。)さらに、学校運営協議会で話し合われた共通の目標を達成するために、地域と学校が一緒に行う活動が地域学校協働活動である。これらの効果として、「職場体験や授業補助などによる教員の負担軽減」「子どものコミュニケーション能力向上や、地域の一員としての自覚の芽生え」「地域住民がやりがいを感じ、学校への理解が深まる」などが挙げられる。

以上の話題提供を受けグループに分かれ、「これまでの地域学校協働活動等の現状について」と「地域学校協働活動等に多くの方々から関わってもらうためには」という視点を考慮しつつ意見交換が行われた。

- ○大人の意見だけでなく、子どもの視点も入れる必要があるのではないか。
- ○しっかりと組織づくりをしていきたい。地域とつながる仕組みが難しい。
- ○高校の協働活動としてインターンシップを長期スパンでやるなど企業として関わっている。 SNSの活用など 積極的に取り入れるのもいいのではないか。
- ○コロナ禍で地域と関わるのも難しくなっているが、学校をさら に開いて知ってもらう企画づくりと、PTAにさらに参加した いという雰囲気も大切である。
- ○高校にとっての「地域」のとらえ方が難しい。地域の人選も大変なことがあるが、共有意識をもって関わっていきたい。学校と地域が本当にウィンウィンの関係になっているのか、再考も必要なのではないか。





山形県ひいては地域にいかに子どもが残ってくれるのか…魅力ある郷土をつくるべきである。多様な人材の集合体である地域と学校が両輪となって社会を作っていかなければならない。社会の急激な変化の中で、地域の誇りやつながり、学びが好循環となって学校に戻るという仕組みづくりが大切である。

山形県PTA連合会副母親委員長渡部香陽子